

2012年3月期 第1四半期 決算説明会

パイオニア株式会社
取締役社長 小谷 進

2011年8月4日

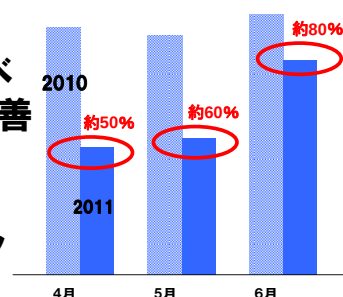
本日発表のポイント（1）

1. 2012年3月期 第1四半期 連結決算実績：

震災の影響による売上の減少に伴い、営業利益は前年同期を下回ったが、社内計画を上回り、7四半期連続で黒字達成

《5月11日決算発表時点との変化点》

- ①**国内の市販カーナビゲーション好調**：メモリーナビゲーション、新製品のARスカウターモード搭載“サイバーナビ”が大変好調に推移
- ②**海外の市販カーオーディオ好調**：欧米では現行モデル、ブラジルでは新製品が好調に推移
(カーOEM売上のイメージ)
- ③**カーOEMの売上が徐々に改善**：
自動車メーカーからの受注は、前年同期に比べ当初1Q 50%程度を想定していたが、毎月改善
- ④**AV用光ディスク事業好調**：
7月の地上デジタル放送完全移行の特需で、薄型テレビ用ドライブ、OEMブルーレイディスクレコーダーが好調に推移



本日発表のポイント（２）

2. 2012年3月期 業績予想：

- ✓ 通期の業績予想は、東日本大震災の影響に対し、下期に想定していた挽回策の効果が前倒しで実現していることから、現時点では変更せず
- ✓ 中間期の業績予想は、売上2,150億円、営業利益60億円、純利益15億円を見込む

3. アライアンスの進捗

- ✓ 亜細光光学グループとブラジルで合併会社を設立
- ✓ 蘇寧電器と中国での戦略的事業提携の強化

本日の説明

1. 2012年3月期 第1四半期連結決算

2. 2012年3月期 連結業績予想

3. アライアンスの進捗

当プレゼンテーション中、当社の現在の計画、概算、戦略、判断などの記述、また、その他すでに確定した事実以外の記述は、当社の将来の業績の見通しに関するものです。これらの記述は、現在入手可能な情報による当社経営陣の仮定および判断に基づいています。実際の業績は、様々な重要なリスク要因や不確定要素によって、見通しの中で説明されている業績から大きく異なる可能性がありますので、これらの記述に過度に依存されないようお願いします。また、当社は新たな情報、将来の事象、その他の結果によってこれらの記述を常に見直すとは限らず、当社はこのような義務を負うものではありません。当社に影響を与え得るリスクや不確定要素には、(1)当社が関わる市場の一般的な経済情勢、特に消費動向や当社が製品等を供給する業界の動向、(2)為替レート、特に当社が大きな売上や資産、負債を計上するユーロ、米ドル、その他の通貨と円との為替レート、(3)競争の激しい市場において、顧客から受け入れられる製品を継続して設計、開発する能力、(4)事業戦略を成功させる能力、(5)他社との合併、提携またはその他事業関係の成功、(6)資金調達能力、(7)研究開発や設備投資に十分な経営資源を継続して投下する能力、(8)製品に関する品質管理能力、(9)生産に必要な重要部品を継続して調達し得る状況、(10)偶発事象の結果などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

1. 2012年3月期 第1四半期 連結決算

2012年3月期 第1四半期 連結業績概要

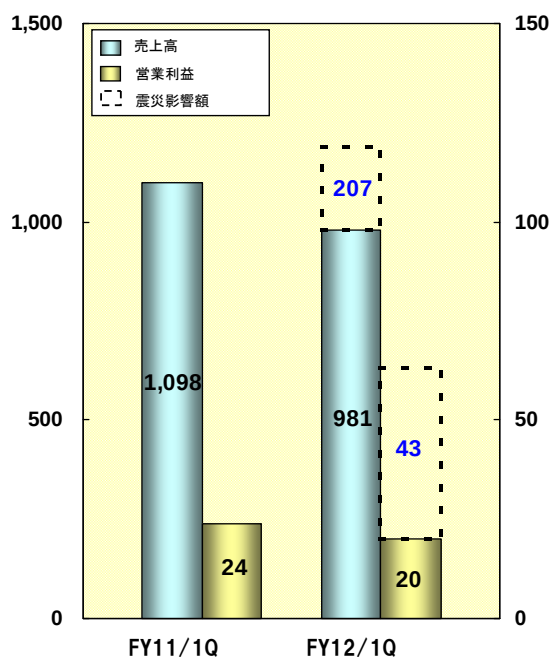
(単位: 億円)

	当四半期	前年同期	前年同期比
売上高	981	1,098	89.3%
営業利益	20	24	82.4%
経常利益	16	17	97.7%
当期純利益	3	6	49.0%

為替平均 レート	1USドル	81.74円	92.01 円	-12.6%
	1ユーロ	117.40円	116.99 円	+0.3%

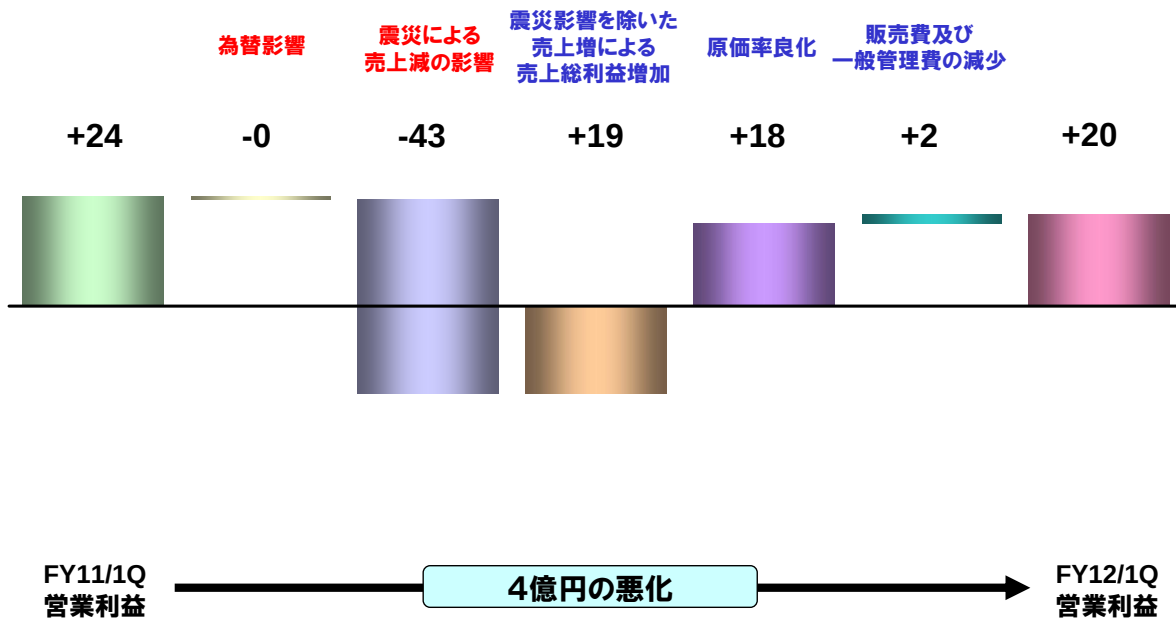
1株当たり純利益	0.91円	1.86 円	-0.95円
ROE	1.4%	2.9%	-1.5%
1株当たり純資産	256.30円	245.72 円	+10.58円
ROA	0.4%	0.6%	-0.2%

(売上高)

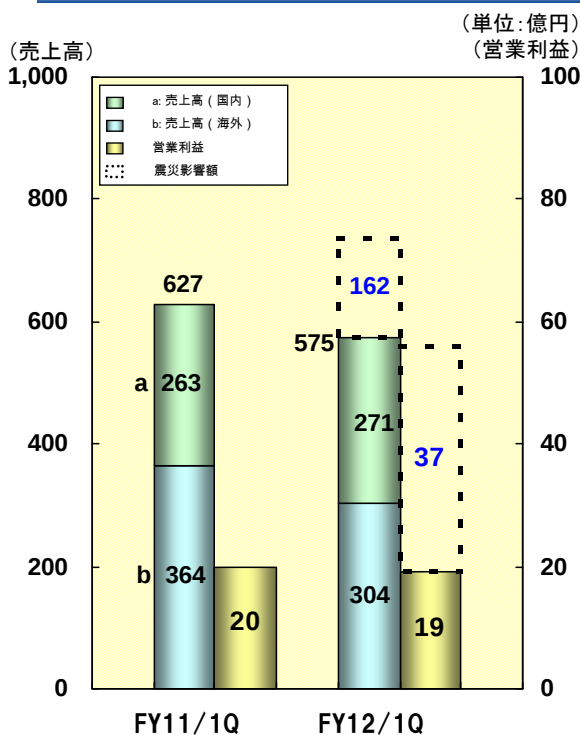
(単位: 億円)
(営業利益)

2012年3月期 第1四半期 営業利益増減要因

(単位:億円)



セグメント別売上高・営業利益(第1四半期): カーエレクトロニクス



< 売上高 > OEM比率 31% (前年同期 45%)

前年同期比	92% (国内 103%、海外 83%)
震災の影響	162億円の減少
増収要因	市販カーナビゲーションシステム
減収要因	OEMカーオーディオ、OEMカーナビゲーションシステム

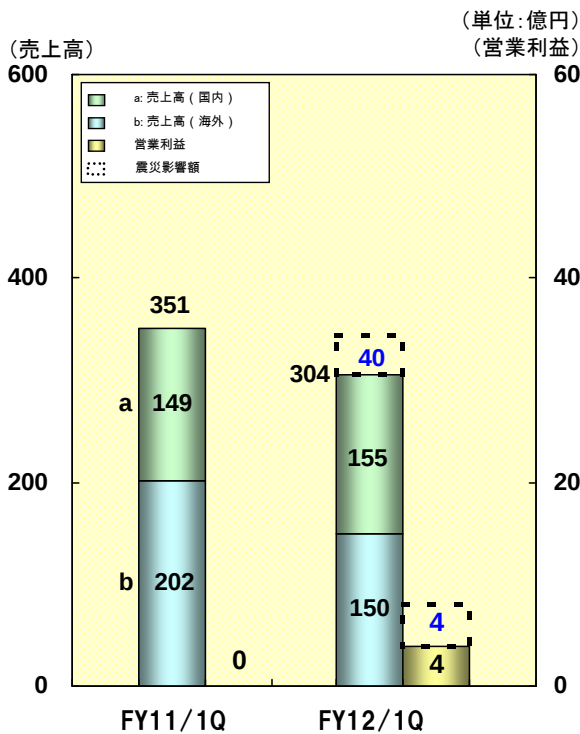
< 営業利益 >

前年同期比	1億円の悪化
震災の影響	37億円の悪化
良化要因	原価率の良化(+14億円)
悪化要因	売上減による売上総利益減少(-13億円) 販売費及び一般管理費の増加(-2億円)

※ 当セグメントに含まれる主要製品:
カーナビゲーションシステム、カーステレオ、カーAVシステム、
カーナビカー

注) セグメント別営業利益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

セグメント別売上高・営業利益(第1四半期): ホームエレクトロニクス



< 売上高 >

前年同期比	87% (国内 104%、海外 74%)
震災の影響	40億円の減少
増収要因	DJ機器
減収要因	光ディスク事業

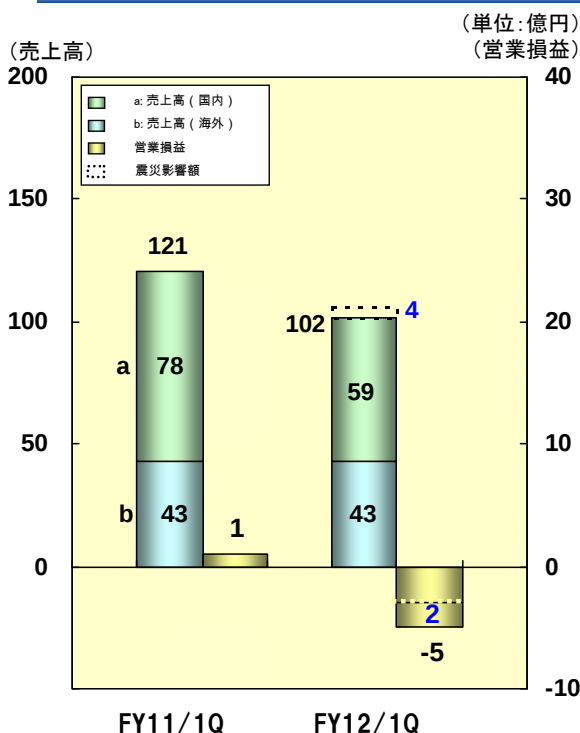
< 営業利益 >

前年同期比	4億円の良化
震災の影響	4億円の悪化
良化要因	販売費及び一般管理費の減少(+10億円) 原価率の良化(+2億円)
悪化要因	売上減による売上総利益減少(-8億円)

※ 当セグメントに含まれる主要製品:
オーディオシステム、オーディオコンポーネント、DJ機器、CATV関連機器、ブルーレイディスクプレーヤー、ブルーレイディスクドライブ、DVDプレーヤー、DVDドライブ、AVアクセサリ

注) セグメント別営業利益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

セグメント別売上高・営業損益(第1四半期): その他



< 売上高 >

前年同期比	85% (国内 76%、海外 101%)
震災の影響	4億円の減少
減収要因	電子部品、携帯電話用スピーカーユニット

< 営業損益 >

前年同期比	6億円の悪化
震災の影響	2億円の悪化
良化要因	販売費及び一般管理費の減少(+4億円)
悪化要因	売上減による売上総利益減少(-6億円) 原価率の悪化(-4億円)

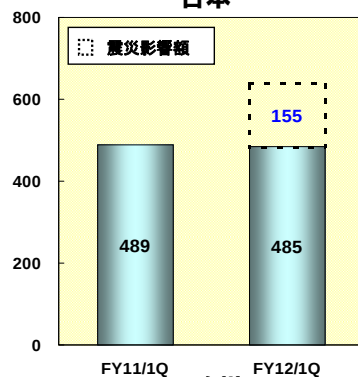
※ 当セグメントに含まれる主要製品:
FA機器、スピーカーユニット、電子部品、有機ELディスプレイ、電話機、業務用AVシステム、地図ソフト、光ディスク関連特許の使用許諾

注) セグメント別営業利益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

2012年3月期 第1四半期 地域別売上高

(単位:億円)

日本



FY12/1Q 前年同期比

99%

震災影響額

155億円

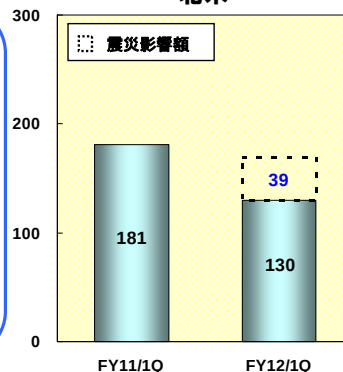
増収要因

市販カーナビゲーション
システム
光ディスク事業OEMカーナビゲーション
システム

減収要因

OEMカーオーディオ
電子部品

北米



FY12/1Q 前年同期比

円ベース: 72%

現地通貨ベース: 81%

震災影響額

39億円

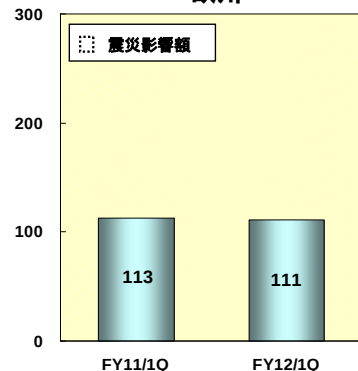
増収要因

DJ機器

減収要因

OEMカーオーディオ
ホームAV製品
市販カーオーディオ

欧州



FY12/1Q 前年同期比

円ベース: 98%

現地通貨ベース: 98%

震災影響額

1億円

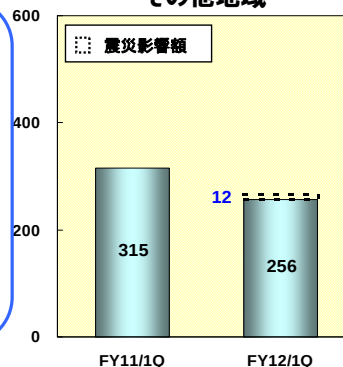
増収要因

市販カーオーディオ

減収要因

DVDプレーヤー
OEMカーオーディオ

その他地域



FY12/1Q 前年同期比

円ベース: 81%

現地通貨ベース: 85%

震災影響額

12億円

増収要因

電子部品

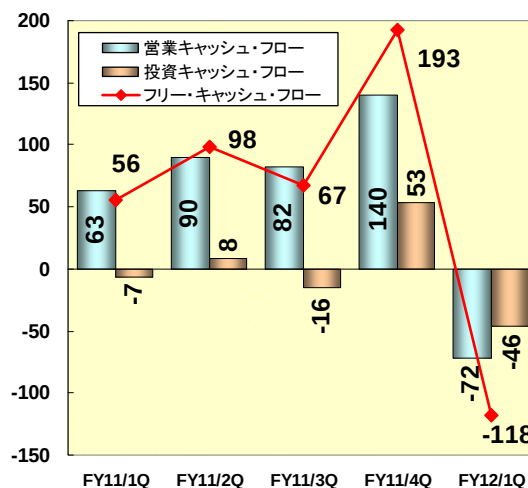
減収要因

光ディスク事業
OEMカーオーディオ & カー
ナビゲーションシステム

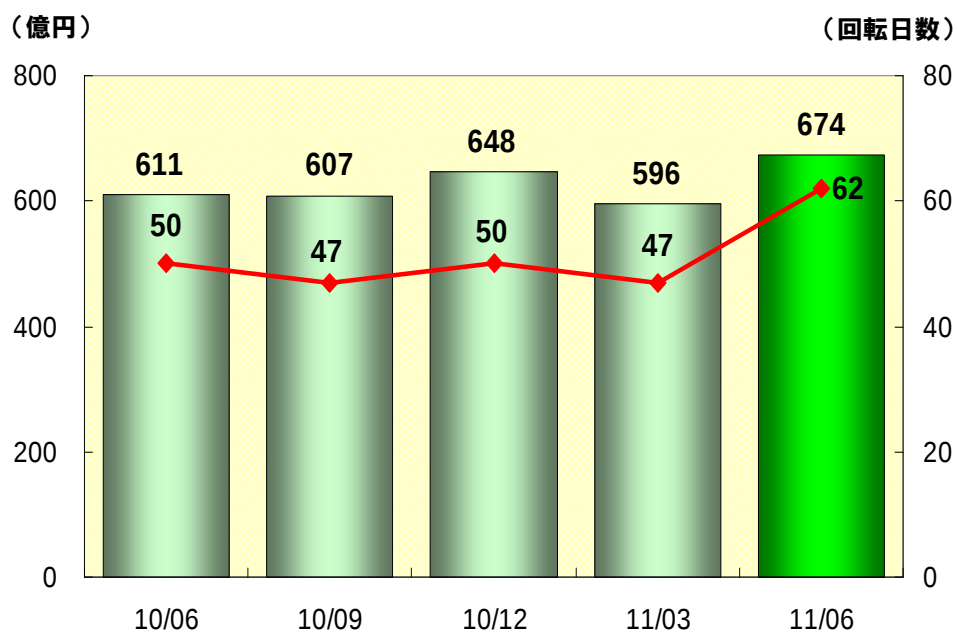
2012年3月期 第1四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	当四半期	前年同期
税金等調整前当期純損益	19	18
減価償却費	62	82
固定資産除売却損益	1	1
退職給付引当金の増減	3	1
売上債権の増減	28	45
棚卸資産の増減	-87	-85
仕入債務の増減	-15	57
未払費用の増減	-50	-34
その他	-34	-22
営業キャッシュ・フロー	-72	63
投資キャッシュ・フロー	-46	-7
財務キャッシュ・フロー	-7	-35
現金・現金同等物の換算差額	-3	-30
フリー・キャッシュ・フロー	-118	56
現金・現金同等物の増減	-128	-9
現金・現金同等物の残高	347	832
NETキャッシュ残高	-525	-771



2012年3月期 第1四半期 棚卸資産



2. 2012年3月期 連結業績予想

2012年3月期 連結業績予想(中間期・通期)

(単位:億円)

	中間期			通期		
	当期予想	前期実績	前年同期比	当期予想	前期実績	前期比
売上高	2,150	2,267	94.8%	4,700	4,575	102.7%
営業利益	60	67	89.6%	175	158	110.8%
経常利益	45	55	81.8%	135	123	109.8%
当期純利益	15	77	19.5%	40	104	38.5%

		通期	
		当期予想	前期実績
為替前提 レート	1 USドル	80 円	85.72 円
	1 ユーロ	110 円	113.12 円

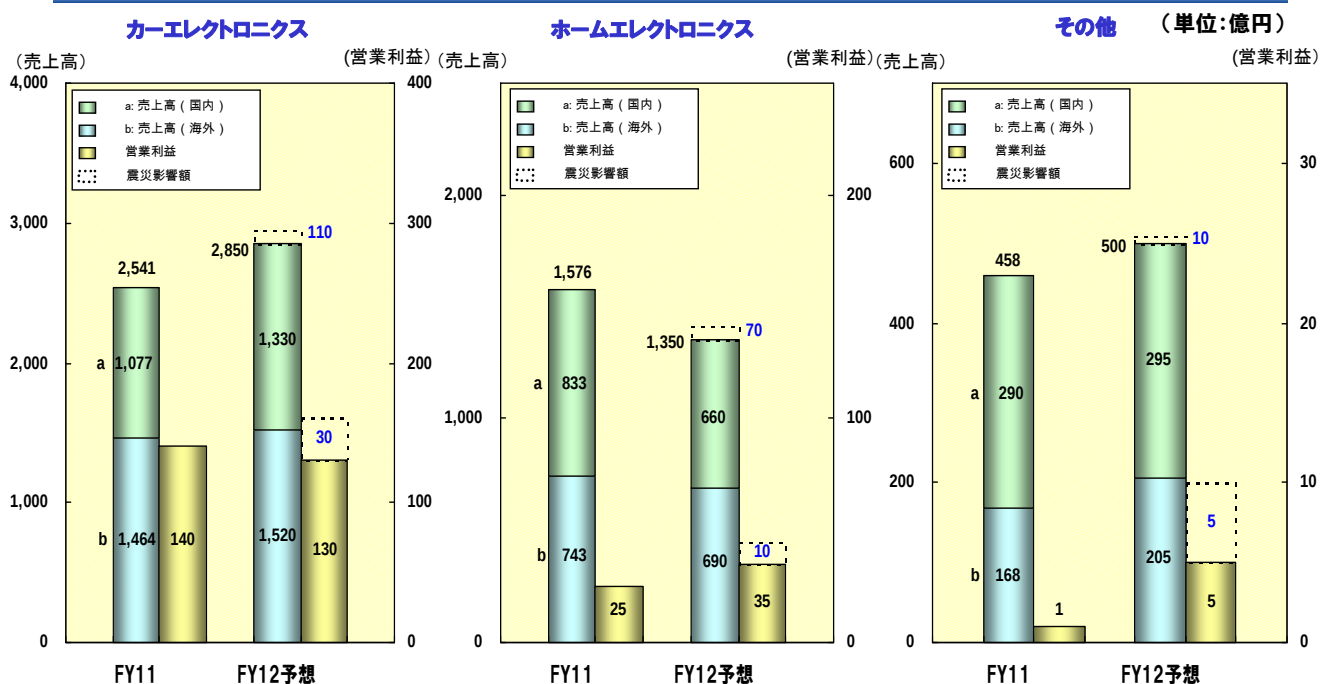
		通期	
		当期予想	前期実績
1株当たり純利益		12.46円	32.24 円
ROE		4.9%	12.0%
1株当たり純資産		278.14円	264.78 円
ROA		1.3%	3.0%

売上および利益に関する通期予想は、
前回発表(5月11日)から、変更ありません。

(注)

1. 通期の当期純利益は、前期には、旧本社などの資産売却益を含んでおります。当期は、退職給付制度の一部を確定拠出年金制度へ移行することに伴い、移行部分に相当する退職給付債務の未認識部分を一括償却するため、特別損失を見込んでいます。
2. 1円の円高インパクト(残り9ヵ月)は、売上高では、US\$は、約▲21.6億円、€は、約▲3.9億円、営業利益では、US\$は、約2.1億円(良化)、€は、約▲2.5億円(悪化)。

2012年3月期 セグメント別通期予想

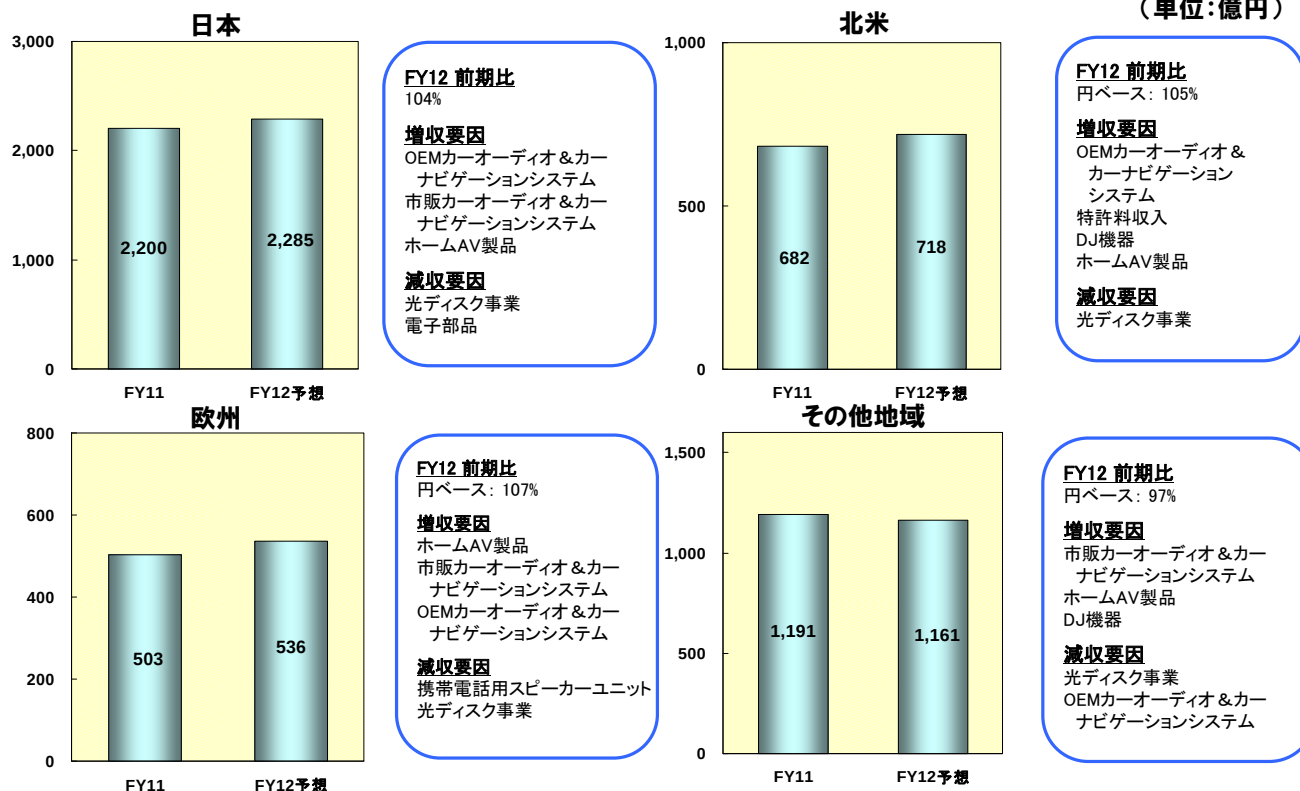


前回発表(5月11日)から、変更ありません。

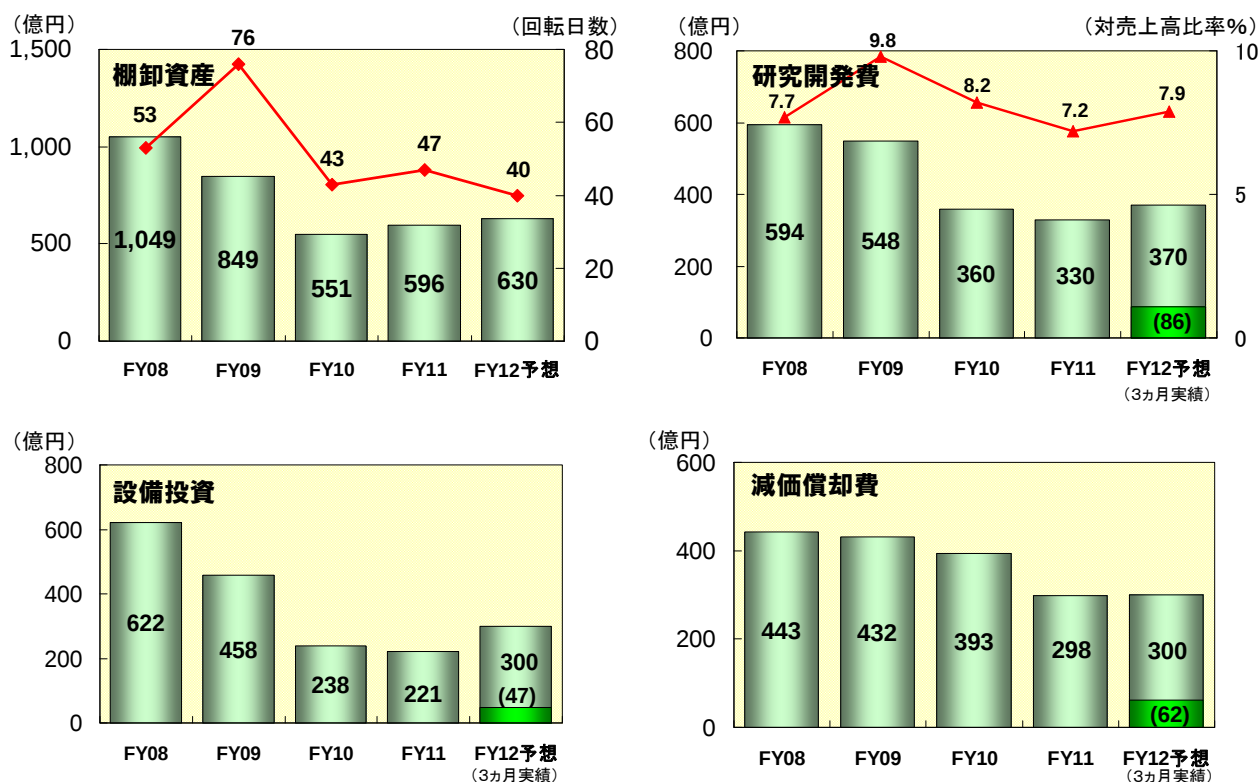
(注) セグメント別営業利益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

2012年3月期予想：地域別売上高

(単位:億円)



2012年3月期予想：棚卸資産、研究開発費、設備投資、減価償却費



2012年3月期予想： キャッシュフローおよび財務指標

【キャッシュ・フロー】

(単位:億円)

	FY09	FY10	FY11	FY12予想
営業キャッシュ・フロー	-616	80	375	295
投資キャッシュ・フロー	-383	-84	39	-250
財務キャッシュ・フロー	858	218	-742	-130
フリー・キャッシュ・フロー	-999	-5	413	45

【財務指標】

	FY09	FY10	FY11	FY12予想
純 資 産	1,118	907	885	930
自 己 資 本 比 率	25.8%	22.4%	27.4%	28.4%
ネ ッ ト 有 利 子 負 債	1,154	738	403	360
D/E 比 率	1.6倍	1.9倍	1.0倍	0.8倍
現 金 及 び 預 金	637	902	476	390

- 注) 1. 「投資キャッシュ・フロー」、「現金及び預金」には、3ヵ月超の定期預金を含んでいます。
 2. 2011年3月4日に、600億円の転換社債を手元資金で償還しました。
 3. FY12の純資産は、退職給付会計基準変更時期の延期に伴い未認識債務の計上を繰り延べたことにより、前回発表の数値を修正しています。
 4. D/E 比率＝有利子負債÷(純資産－少数株主持分)

3. アライアンスの進捗

亜洲光学グループとブラジルで合併会社を設立

- 本年2月の合意に基づき、当社子会社パイオニアド ブラジルと亜洲光学グループの間に生産合併会社の設立に合意
- 合併会社がデジタルカメラの生産受託を引き継ぎ、2011年末に生産開始予定
- 2012年前半に、工場新棟を竣工し、事業拡大を推進予定
 - 生産合併会社
 - ・ 会社名 パイオニア ヨーキド ブラジル(PYB)
 - ・ 合併実施予定日 2011年9月
 - ・ 所在地 ブラジル マナウス市
 - ・ 資本金 5,000万リアル (パイオニアグループ51%、亜洲光学グループ49%)
 - ・ 社長 志水 達二
 - ・ 従業員 約70名 (当初)
 - ・ 目標売上高 約150億円 (2015年)
 - ・ 主な事業: ①機構部品生産・販売事業
②EMS製造請負事業
③デジタルカメラ生産事業



PYB工場新棟外観イメージ

蘇寧電器との中国での戦略的事業提携の強化

- 2009年11月締結の事業提携の進捗
 - ①パイオニアブランドの薄型テレビは、初年度(FY11)販売予定台数を大きく上回る
 - ②当社ホームAV商品拡販のための展示店舗数拡大
 - ✓ 初年度(FY11)計画250店舗⇒300店舗以上に展開
- 戦略的事業提携強化の内容
 - ①当社ホームエレクトロニクス商品の中国における売上拡大
 - ✓ ホームAV商品のラインアップモデル数の拡大: 従来比2倍以上
 - ✓ 展示店舗数の拡大: 2014年での展示店舗数1,000店以上
 - ✓ 戦略的提携および薄型テレビのブランド提携期間を5年から10年に延長
 - ✓ 薄型テレビは、当期中に商流を変更し、パイオニアグループの売上とする予定
 - ②事業拡大のためラインアップにデジタルカメラを追加
 - ✓ 蘇寧電器チャネルを使って、中国国内でデジタルカメラを販売
 - ✓ パイオニア-亜洲光学のパートナーシップの活用



《イメージ写真》

2015年3月期目標

- ①中国でのホームエレクトロニクス事業の売上目標: 400億円
- ②蘇寧電器ルートでの販売計画: 薄型テレビは100万台、デジタルカメラは50万台

Pioneer